2024 年 5 月 20 日
井関農機株式会社

2024 年 12 月期　第1四半期決算説明会
質疑応答要旨

（問1）第1四半期は例年利益の出にくい時期だが、当期はしっかり利益が出ている印象。今決算をどう評価しているか。
また、今後の利益の出方について、例年に比べて変化はあるか。

（回答）

・今決算は想定通りだと考えている。第1四半期は例年、国内市場が不需要期であるため利益の生じにくい時期であり、従前は赤字での着地が多かったが、ここ数年は海外売上高が増加していること等が寄与し、改善が進んでいる。昨年は値上げ前の駆け込み需要による影響、2021 年度は補助金の関係で国内売上高が伸長し、特殊要因によって黒字での着地となったが、当期は、国内売上高は例年並みであったものの、海外売上高の増加、特に欧州でプレシーズンの需要を捉え伸長したことにより、黒字で着地したことは評価している。今後は、海外売上高比率の高まりによって四半期ごとの利益の出方にも変化が出てくると考えられるが、いずれにしても利益水準を高めていくべく、プロジェクト Z による抜本的な構造改革と成長戦略を進めていきたい。

（問2）プロジェクト Z の進捗について、特に追加施策の検討状況を教えてほしい。

（回答）

・既に公表している項目である抜本的構造改革の 3 つのテーマおよび成長戦略の進捗状況については、決算説明会資料の 21 ページに記載の通り、スケジュール通り進捗している。また、追加施策については検討を重ねている段階であり、決定次第、都度公表していく。

夢ある農業応援団

（問3）在庫の削減方針、進捗について教えてほしい。

（回答）

・前期末（2023 年 12 月末）は、2021 年 12 月末比で約 230 億円の棚卸資産増加となった。うち、約 50 億円は ISEKI ドイツの連結化に伴う増加のため、約 180 億円の純増だが、この第１四半期では、更に 9 億円の増加となった。主に営業部門で増加となったが、国内では、例年、第１四半期は需要期に備えて前期末から在庫を積み増す傾向にあるものの、決算説明会資料の 10 ページ下段に記載の通り、今期は前期末からの増加幅を抑制している。次の四半期では需要期ということもあり、今後国内外ともに減少に転じると考えている。資産効率化は大きな課題であり、引き続き適正な在庫水準へ削減を進めていきたい。

以　上

将来予測に関する免責事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、2024 年 12 月期第 1 四半期決算説明会開催日(2024 年 5 月 15 日)時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。